



# 営農NEWS



## ミズナ栽培における主な病害虫の防除

ミズナは比較的病害虫の発生が少ない作物ですが、ハウスを利用して周年で長期に連作栽培すると、土壌病害の立枯病やリゾクトニア病、萎凋病、軟腐病などが発生しやすくなります。また、茎葉病害では白さび病や菌核病など、害虫ではキスジノミハムシ、アブラムシ類、ハモグリバエ類、コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハイマダラノメイガなどが時期により発生します。

作期によって病害虫被害の発生が大きく異なりますので、作期ごとに病害虫の発生実態をよく整理し、作期ごとの適正な防除体系を組み立てることが重要になります。

### <病害虫発生の特徴>

春または秋の低温多湿のときには、白さび病など茎葉病害が発生しやすくなります。また、土壌病害として圃場が多湿のときに立枯病やリゾクトニア病などの発生がみられます。さらに近年は、土壌病害の萎凋病が発生しており、高温期に発生が多い傾向です。

害虫では、キスジノミハムシが夏季を中心に長期に被害が発生し、アブラムシ類やハモグリバエ類は春と秋に発生しやすい傾向です。チョウ目幼虫のコナガやアオムシ、ヨトウムシ類も春と秋を中心に発生しますが、ハイマダラノメイガは夏季～初秋に被害が集中します。なお、これら害虫の防除が手遅れになると、大きな減収を招きます。

### <防除対策のポイント>

ミズナには登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない総合防除が必要です。多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場の排水不良の改善や高畦栽培を行い、過度の灌水を避けて適度な湿度条件に保つよう、ハウスやトンネル換気等の適正管理に努めます。発病株は早めに除去し、発病場所を中心に早めの薬剤防除を行います。なお、連作や土壌病害が発生した圃場では、除塩を兼ねて、夏季の還元型太陽熱土壌消毒などを実施しましょう。

害虫の対策には、ハウスやトンネルの開口部に防虫ネットを展張して、害虫の侵入を防ぐことが最も大切です。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草を除草するなど、圃場衛生に努めます。さらに、登録のある各種粒剤を播種または定植前に処理し、被害が発生したら早期の除去と薬剤防除を実施してください。

表 1 ミズナの各種病害に対する主な防除薬剤（平成 30 年 9 月 19 日現在）

対象病害				薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
立枯病	リゾクトニア病	白さび病	軟腐病				
○				ダコニール 1000	1,000 倍液を 3ℓ/m <sup>2</sup> 土壌灌注	播種時 / 1 回	M5
○				タチガレン液剤	500 倍液を 3ℓ/m <sup>2</sup> 土壌灌注	播種時 / 1 回	32
	○			リゾレックス水和剤	1,000 倍液を 3ℓ/m <sup>2</sup> 土壌灌注	播種時 / 1 回	14
		○		ユニフォーム粒剤	9kg/10a 全面土壌混和	播種時または定植時 / 1 回	4 と 11
		○		ランマンフロアブル	2,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内	21
		○		アミスター 20フロアブル	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	11
		○	○	ジーファイン水和剤	1,000 倍	収穫前日まで / -	M1 と NC
			○	Zボルドー	500 倍	- / -	M1

注) 分類欄には、FRAC コードを記載しました (コードが 2 つは混合剤)。同一分類 (コード) は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表 2 ミズナの各種害虫に対する主な防除薬剤（平成 30 年 9 月 19 日現在）

対象害虫					薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
アブラムシ類	アオムシ	コナガ	ハモグリバエ類	キスジノミハムシ				
○				○	スタークル粒剤	6kg/10a 播溝土壌混和	播種時 / 1 回	4A
○		○			モスピラン粒剤	3kg/10a 播溝土壌混和	播種時 / 1 回	4A
				○	ダイアジノン粒剤 5	6kg/10a 全面土壌混和	播種時または定植時 / 1 回	1B
○					ウララ DF	4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	29
○					ジェイエース水溶剤	1,500 倍	収穫 21 日前まで / 1 回	1B
	○	○	○		アフーム乳剤	1,000~2,000 倍	7 日前まで / 3 回以内	6
		○		○	アクセルフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	22B
		○			スピノエース顆粒水和剤	5,000 倍	収穫 3 日前まで / 1 回	5
		○			コテツフロアブル	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 1 回	13
	○	○	○	○	カスケード乳剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	15
	○	○			エスマルク DF	1,000~2,000 倍	収穫前日 (発生初期) まで / -	11A

注) 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類 (コード) は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話 : 029-291-1012 FAX : 029-291-1040